

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500324		
法人名	有限会社寿老会		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	埼玉県南埼玉県宮代町須賀1295		
自己評価作成日	平成22年4月23日	評価結果市町村受理日	平成22年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1170500324&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お花や野菜を育てたり、漬物を作ったりしてゆっくり、のんびり暮せるように支援しています。家族とは違いますが、仲間同士がお互いに助け合いながら地域とも関係を持ち、自分らしく暮していけるようにしています。
ご利用者様の今まで暮してきた経験や感性を大切に、現在もてる能力や体力を維持していけるよう支援しています。

周囲を田んぼで囲まれ、最寄りの駅から歩いて数分の所にある当ホームは、平屋建てで三ユニットあり、廊下、各フロアは広く、ゆったりとしたグループホームである。出来る事は何でも入居者と職員が一緒にいき、自立に向けて支援している。すぐ近くには同法人が運営するデイサービスとショートステイがあり、お互いに連携をとりながら地域に根差したホームを作り挙げている。職員は入居者の目線で支援し、アットホームな雰囲気です。日常生活が送られている。管理者は職員の気持ちを大事にし、職員は入居者の気持ちを大事にして、個々に合わせた支援を臨機応変に行っている。入居者に穏やかな表情が現われている。又、入居者の感性を大切にしている所も一つの特徴と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に判りやすい言葉で書いたものを掲示し、常に見ることができる。	玄関を入るとすぐにホームの理念が掲示されている。三つの基本理念を基に、週2~3回申し送り時に確認し合い、理解を深めている。時には、事例を挙げて具体的に話合う事もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣に小学校がある為、児童の下校の見守りをしているが定着していない。六年生の、総合学習の場所を提供している。	地元小学校の総合学習の場として、毎年6年生が訪問する。又、小学校の運動会に招待され、参加している。子供たちの下校時に、見守り、声掛けを時々している。地域の運動会やゴミ拾い等にも入居者と職員と一緒に参加する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日ごろの取り組みなどをホーム便りにして役場におき、住民に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現状報告が主になっているが、災害時の対応について地域の協力の必要性を感じている。避難訓練に地域の人の援助依頼検討中。	ホームからの現状報告と、外部評価の結果報告が主な内容となっている。地域住民に声掛けしているが、参加する方が少なく、検討課題の一つである。	地域住民にホーム便りや会議の開催案内を配布する等参加への働き掛けを行い、会議を通して地域の方々にホームが理解され、協力頂ける機会が増す事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に介護保険課と連絡を取り、役場にパンフレットを置いている。又、認知症の家族からの相談は積極的に受けるようにしている。	入居者と一緒に町役場にパンフレットを置きに行き、声を掛け合っている。介護相談員も受入れている。役場を通して認知症の相談も受けている。時々ではあるが、包括支援センター職員や役場担当者の訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などでも身体拘束について正しく理解できるようにしていることと、職員が常に考えながら仕事に取り組んでいる。	ホーム前の道路は交通量がある為門を閉めているが、玄関は施錠せず、庭への出入りは自由である。入居者は洗濯物を干したり花の手入れをする等閉塞感はない。夜間眠れない方は和室を利用して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様が主体であり、言葉使いを気をつけることから何が虐待なのか相手の立場となり考え、理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については理解しているが個々の必要性を理解して支援するところまでにはいたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を取り重要事項説明書をもとに十分な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ホームでの暮らしを家族に伝え、意見が言い易いよう配慮している。	家族が訪問した時は、職員から声を掛け、話し易い雰囲気作りに努めている。意見や要望を聞き、運営に反映している。限られた方ではあるが、頻回に訪問している家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見が言い易いよう、コミュニケーションを取り、勉強会など定期的な話し合いの機会作りをしています。	月一回のリーダー会議の時に話合っている。例えば、リクライニング車椅子の購入、職員の補充、ボランティアの受入れ等、具体的な意見を出せる場になっている。その他に管理者は、何時でも職員の意見や相談等に耳を傾け、対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のレベルに合った向上心が持てるよう、職員の活躍の場作り又は、研修の参加、社内移動への希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が受けられるように職員に情報を伝えること、受けたい研修を各自探してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での交流を行なうことと、外との交流ができるように他施設との関係作りを行なって行こうと思うが思うようにできていない。地域ケア会議への参加をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前での話し合いをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問をしたり、困っていることが話せる時間や環境作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、ケアマネージャーを中心に支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるご利用者様に、共に暮らし、人生を教えていただくという気持ちで職員は仕事に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力を得られることはご家族にも協力して頂けるよう、職員は日ごろから関係作りに励んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切にいただき、施設は今までの延長の暮らしの場であるので、散歩や祭りに出かけたり、外との繋がりの支援をしています。	地域の入居者が多く、又、ホームが平屋で行き来し易い事もあり、他ユニットの友人とおしゃべりに行き来している。又、職員と一緒にパチンコへ行ったり、外出に出掛ける等、個人の希望に合わせた支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の気持ちも毎日の生活の中で変化するので、その時々での細やかな気配りに勤めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院という形で契約終了がほとんどであるが、入院中もご家族や本人の支援にできる限り努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを引き出せるようにケアマネジメントすることと、できる限りご家族からも情報を頂いています。カンファレンスに本人も参加できるようにしている。	介護計画を作成する時には、その都度出来るだけ細かく情報を家族から聞くようになっている。一人ひとりの感性を大切に考え、本人もカンファレンスの場に参加して頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの延長で新しい生活ができるように、些細なことも記録に残しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中での気持ちや身体の状態がすぐにわかるように、記録として残しています。個人記録の活用。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的介護計画について意見を出し合い、チームとして課題解決に取り組んでいます。カンファレンスを活用しています。	引継ぎ時に細かい事を連絡し合い、定期的に各ユニット毎のカンファレンスで具体的な事例に基づき検討している。カンファレンスの情報を共有し、ケアに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に職員のき気づいたことも記入してもらい、カンファレンスでの情報交換に勤めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスを利用し、新たな問題があれば再び職員で話し合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の今迄行なっていた事や馴染みのある場所にいけるよう、ご家族の協力も得ながら地域資源の活用をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診のほか、体調の変化に応じ近隣の医院を受診して適切な医療が受けられるように支援している。	提携している病院から定期的に月一回主治医の往診がある。急を要する場合には、ホームの隣にある医院に職員や家族が受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が配備しており、介護職員と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にし、ご家族の意向も取り入れながら早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	住み慣れた場所で終末期を迎えることは当たり前のことと考え、職員全体でターミナルケアへの取り組みを前向きに検討している。医療面のサポート・職員体制の整備・具体的な対策を検討していく予定です。	今後、家族・本人の希望を聞き、医療面のサポート、職員体制、家族側の協力等についてホームとして具体的に検討していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っていないが、これから勉強会で緊急時の対応を学ぶことを検討していく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣に同様の施設があるため協力関係は出来ている。防災訓練は定期的に行なっているが、夜間については今後行なう予定。	年二回の防災訓練を定期的に行っている。夜間を想定した火災訓練を先月初めて実施した。地域との協力体制については今後の課題となっている。スプリンクラーは設置済みである。	地域とのつながりを大切にしながら、自警消防団や近所の方に声掛けし、協力体制が築かれる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉がご利用者様にとって不快な気持ちにならぬように、相手の立場・気持ちになり接するよう心がけることと、意識の統一をしています。	言葉使いや声のトーンに配慮して会話している。乱暴な言葉使いを耳にした時等は、その場で注意するようにしている。排泄支援についても、さり気なく声を掛け、トイレへ誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちが出るように声かけを行なっている。職員からコーヒーを飲みに出かけるか否かを話題に出し、希望がある時に行けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気持ちを優先しています。帰宅願望がある場合には付き添って自宅へ行く。買い物・お茶などその日のご利用者様の気分での生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	割烹着を着て台所仕事をしてもらっている。毎日欠かさずお化粧をしている方に、その心を忘れないように支援している。美容室にて髪を染めてもらいに出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎやおかずの取り分け、食器の準備をご利用者様と一緒にしている。	歩いて2～3分の所に同法人が運営しているデイサービスとショートステイがあり、その厨房で調理した副食を入居者と職員で取りに行き、ホームで配膳している。主食はホームでユニット毎に作っている。食べ終わった食器は職員が片づけるが、食器洗いをされる方もいる。	食事介助が必要な方も居ると思われるが、周りで見守るよりも、職員もテーブルに付き、一緒に食事を楽しめるような雰囲気作りが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど好みの飲み物を飲めるようにして、時間を作っている。食べやすいように、刻みにして個々に合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。必要に応じ訪問歯科の協力を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を訴えられない方には、排泄のパターンをつかみトイレ誘導を行なっています。又、個々に合わせてトイレやポータブルトイレを使用しています。	入居時に弄便や失禁の多い方はトイレに近い部屋を用意し、表情やしぐさでタイミングをつかみ、誘導し、改善された方もいる。又、状況に合わせて、居室にポータブルトイレを置く等、様々な工夫を試み、入居者の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り散歩や体操で体を動かしてもらえるように支援しています。便秘傾向の方には水分・ヨーグルト・牛乳などをせ摂取できるように配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが本人の入りたい時には入浴できるよう、個浴を活用し希望に答えるよう支援してる。	基本的には週二回の入浴になっているが、希望があれば夜間を除き毎日でも可能になっている。その時は、個浴利用となる時が多い。浴室がいくつかあるので、入居者の好みの浴室に入って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の表情や行動からも疲労を察し、夜間の睡眠時間や生活リズムも考えながら、昼寝を活用し過ごしやすいように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方通りに服薬の支援を行なっている。常に薬が確認できるようにお薬ファイルを作成してあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に朝礼に参加してもらい挨拶をもらっている。昔の仕事柄、役場のことや年金について詳しいご利用者様と一緒に役場へ行くなど、個々に合わせての気分転換を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足りないものや必要なものは一緒に買い物に行っています。地域の方への協力は検討段階ですが、傾聴ボラを始めています。	毎月の料理の日には、献立から食材の調達まで入居者と職員で考え、買物に出掛ける。日常生活で足りないものは個別で対応し、出掛ける。外食・花見等は各ユニット毎に実施している。墓参りは家族の協力が出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が自己管理できる方又は職員が管理して買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が自ら電話をかけたりご家族・知人からの電話を取り次いで支援をしています。必要に応じ、ご利用者様宛ての手紙はご家族と一緒に開封できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いている四季の花々を生けてテーブルの上や居室に飾ったり、玄関先に飾っています。他にできることは職員と一緒に考えて支援しています。	フロアが広く、ソファが所々に置かれている。広い畳のスペースもあり、夏には畳の上で昼寝をしたり、寒くなるとこたつが置かれる。壁には職員の描いた似顔絵が貼られ、落ち着いた雰囲気になっている。入居者の「生活の場」として配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場にあるソファ・テレビの近くや和室などでくつろいだり気のあった仲間と談話したり、一人で休みたい時は居室で自由に過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の設置、写真・置物など好みのものを飾っている。	ベッド、整理ダンス、防災カーテンは設置してあるが、その他の物(テレビ、テーブル、写真、仏壇、置物等)は、危険な物でなければ自由に持込んで頂き、居心地良く日常生活が送れるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の意思判断を尊重し、趣味や本人の得意なことを生活の中に取り入れている。		